

考動・躍動・感動

東中の一員として校歌を歌おう！

式日を大切にして、けじめをつけてほしい。

(始業式での校長先生の言葉より)

- ・態度←真剣な態度で式に参加することができましたか？
- ・身なり←中学生らしく清潔感のある身なりでしたか？
- ・校歌←一人一人が学校の一員として意識をもって歌えましたか？

上の3つの問いは、今、みんなの心に問いかけてみたいことです。先生は校長先生の話聞きながら、思わずうなずいていました。始業式・終業式(3学期は修了式)は、たった20分程度の式です。しかし、先生はその20分間をどういった姿勢で臨み、どういった気持ちで過ごすかがとても大切だと思っています。だからこそ、先生たちは式に臨む姿勢や身なりなどを細かく注意するのです。もちろん先生たちも、気を引き締めているいろいろな思いをもって式に臨んでいます。終業式(修了式)では、その学期の生活を振り返り、しっかりと反省をすることが求められます。また始業式では、新しい学期を迎えるにあたって、どういった気持ち・姿勢で過ごしていくのか決意することも必要になってくるでしょう。



昨日のみんなの様子を見ていると、全体としての態度・身なりは、十分合格点をあげることができます。入場をして、2年生・3年生を『待つ姿勢』も、これまででは一番よかったと思います。しかし、残念ながら校歌が全くと言っていいほど聞こえませんでした。夏休み、テレビで高校野球を見ませんでしたか。高校野球では、校歌は勝ったチームしか歌うことができません。笑顔で大きな口を開けて歌っている高校生、時には人目をはばからず涙を流しながら大きな声で歌っている高校生を、先生は何度となく見ました。それだけ自分の通う学校に対して誇りをもっているのです。自分がその場(学校)で必死に取り組んでいる証だと思っています。「残



して歌い直しましょう。」という意見もありました。先生も正直、迷いました。しかし、無理やり歌っても、聞いている人の心には響かないし、何よりそれは真の意味での校歌ではないと思い、やめました。次に全体で校歌を歌うのは、2学期の終業式になります。たくさんの行事を経験する中で、部活動や各種活動に取り組む中で、『東中学校の一員』という意識が今よりも高くなり、しっかりと校歌が歌える集団になることを期待しています。